夕刊 磐城新聞
八月十五日發行
定價一ヶ月金五十錢 … 發行所 磐城新聞社
（日曜祭日翌日休刊）

秋日抄（下）

四倉町仲町 新谷俊雄

×私達の苦痛は泪を流す事に依つて苦痛を癒へる事が出來る

然し老婆は安眠を求める爲めに此れ以上の宗教の利益は欲しくは無いと言ふ、老婆は人類社會にのみ神より與へられた泪を宗教の一つとも言つた事がある。苦痛を耐へて居れば宗教の必要は無い其處に始めて神の途を開拓する事が出來ると言ふ私は老婆の眞理を敬遠する

×

苦痛の底に徹した刹那魂を培ふのは善でも無い惡でも無い泪だと言つた――私は此處に孤獨な者の慰安地帶を認め識る事が出來た。

×

或る時友達の一人が女教員の態度を痛烈に排擊した私は同時に友達に對して寧ろ『嫉妬した理解』を持つ君の態度を輕蔑すると言つた如何に女教員の態度に辯護論を引用しても宗教の愛を感せぬ私は、原始時代の掠奪結婚を辯護するに等しい矛盾を老婆に知られたならばとしても決して老婆は私を非難はしまい

×

封建的精神に慰安を與へる爲めに附近の小高い山に登つた事がある。喧嘩を極めた蟬の聲が私に或る大きな力と興奮を與へた――更に自分唯獨が世界に孤獨である事實を見出す寂寞も自分自身にとつては尊い機緣でなければならぬ事も知つた

×

健康に弱い友達が二人とも死に逝つた事は私の精神的にも肉體的にも最も大きな打擊に遠ひなかつ。私は今後の勉强法も忘れた。

然し冷靜的な頭腦は以前に增した事が嬉しく感じられた。

私は最後的な悲哀が厭世的な觀念に依つて興奮を征服し得たのかも知れない。同時に最も廣い範圍を持つた有力な競爭者相手を發見せねばならない。

×

悲哀や苦痛は神の鞭である『ソロモンの榮華も野の百合に及ばざりき』と言つたキリストの言葉は決して比喩的な美辭では無かつた

×

老婆の意志も確乎基督的な觀念を持つて居た樣に想はれる。勉强せよ、環境を開拓せよ、舊習慣に捕らはれるなと老婆の言つた言葉に社會は果して認容し得て呉れたらうか？。私はそれを疑ふ。

社會事象に對する私達の批判や認識は超越した刹那絕對的と見做す、然し缺陷を發見せらるる法は絕對無い寧ろ自己の批判及び認識を賭搏する事は衆人の目前で自己自身の意志を輕蔑して居るに過ぎ無い。

然し社會の矛盾した或る一部分の人間達は平氣で試驗して居るから洒落臭いにも程がある

×

私は現實の混沌した虛無を通じて理解を强ひて求める必要は無い老婆が生きて居る間は――、老婆の理解は私への一生涯の追擊力である。

磐新歌壇

小山田滋選

○ふりじやあはあこがれの花よ夢の花、わが思出ににほひ出る花　長友

○日はおちぬ田の面をかへる人々の、急ぎ足さへたのもしきかな

○まの向ふの森に一とき『かな〳〵の』、せわしくなきて暮れ入りにけり

病床歌床一　在小名濱 助川十九

○夏山のしげみにありて太らかに蜚啼く烏は何の鳥ぞも

○晝更けを啼く木兎のこゑきくに思ひ煩らひ啼くがごとしも

潮聲硯靜抄

金魚　紙上互選

買ひて來し金魚を卓に夕親し　華岳
雨後の陽の樹影くづして金魚かな　同
千兩の金魚泳がす御池かな　文狂
雨あとの水の濁りや金魚浮く　石城
宰ぬちはわびし金魚と病兒と　竹羊
呑んだ餌をまた吐いて居る金魚哉　晩霞
金魚賣る聲凉しげに遠ひびく　同
金魚賣日蔭に肩を休めけり　城月

しやうぶ（遺稿）

海邊公子

しやうぶが
光つてゐる
刀のやうに
光つてゐる
朝のお日さんに
光つてゐる。

櫻

やはらかい風
ふいてきた
櫻はちらずに
ふかれてゐる。

8月16日

△神皇正統記成る（延元四）△始めて種痘を試む（嘉永二）△日墺通商條約調印（昭和五）△長江益々增水武漢三鎭大湖と化す（同六）△時局匡救豫算閣議で正式に決定△郵貯利下げも閣議で決定△釣島水道で日福丸、日出丸の兩貨物船衝突、日福丸沈沒し十數名行方不明となる（同七）

社會の今日

○

流し針上げゆく路や露涼し　素秋

井のもとの水引草も石菖も、よろこぶ如く白き露たく　與謝野寛

講談 劍火無情

(93)　津屋義人作　菅野祐作齋

白河の關（三）

松子はそれに氣附かず厠を出て來て手に水をそゝいで元の樣に來た。そして第一に彼の種ケ島を人知れず帶の間に入れた。

『鐡さん、お酒はもうお止めなのもつと取つてお飲みなさいな』

菊石の鐡は、眞赤な顏を振つて

『奥樣、此通り好い心持になつて了ひやしてね、イヽエ何う致しやして、此上飲んだら役が勤まりやせん。ぢやアお伴しやせう』

女中に心附け、茶代と共に拂ひを濟ませた松子は

『そんなら出懸けませう』

女將や女中は、門口まで送り出して來た

『有難う存じます、お靜に被行いまし』

『お歸りに又何うぞ！』

『宇都宮の兄さん、好いた客樣を案內して下すつて有難う』

其聲を跡に、寶積寺の町を過ぎて氏家へ近一里を急いだ

半時と經たずして、氏家の民五郎の戶外へ着したの民五郎は此界限切つての貸元で、宇都宮の五平太の弟分である。此男を見込んで五平太が玉五郎、田岡大助二人の今後の活躍に對する腕貸しをも托したのである

民五郎夫婦も丁度在宅なので、鐡は五平太の傳言を委細語つて松子を引合せた

夫婦は松子に初對面の挨拶が濟むと、民五郎は聲を潜めて

『奥樣、玉五郎は直にでも呼寄せやせても可うがすがね、秋岡の旦那と大角和尙さんは白河の形勢を見て來ると被仰つて、今朝お出かけになりやしたから、多分二三日經つたらば、お歸りかと存じやす。まあ何うぞ悠りとなすつてお遊びなせえやし』

『松子はこれを聞いて當惑した。折角良人の所在を突止めれば、宇都宮では氏家といふ。氏家へ來れば白河の落と言はれ、加之も白河の落着く先は不明だと聞いて流石の女丈夫も一寸當惑した

『白河へ參つて、問合せたら大抵判りませうかね』

民五郎は肩を顰めて

『判ると申上げてゐんですが、今度は何分武家方の方を窃と探りに行かれたんですから、私の方とは全然世界が違つて判りやせん』

『マア困りました事ね』

『ですから奥樣、失禮ではございますが、待つとお極めなせえまし、秋岡樣の被仰るには、白河が勤王か佐幕か、棚倉へお國替になつた阿部樣は、確に勤王の筈だが何うしても白河は奥州街道の咽喉首だから、探りを一番に入れて見て、大抵判つたら一旦戾つて玉五郎も連れて參る、其方だけ待つて居れといふんですから永くお戾りにならねえ事はありやすめえ』

『ぢやア御迷惑でせうが二三日お世話になります……鐡さん、お前歸つてこの事を宇都宮の親分へ傳へて下さい。何れ良人に出會ひましたらお禮に伺ひますと言てね』

『へイ畏りやした』

此話の中に鐡は又勝手で酒の馳走になつて愈々好い機嫌でゐた

民五郎の妻お德は草鞋を穿いてゐる鐡の背後から

『鐡、之はね奥樣がお前へ御祝儀だと言つて下さる。それから之は少いが、自家の親分から使賃だよ、醉つてるから落さないやうに持つてお出でよ。それから宇都宮の姐御へも宜しくね』

鐡は益々悅に入つて

『濟みやせんねえ、一々斯麼物を戴きやしては……へいさうですかい。そんならお辭儀なしに頂戴して參りやす、親分が呉れ〳〵も大事な使だから、早く歸つて容子を知らせろつて言ひやしたから、ぢや直ぐ御免蒙りやせう……奥樣へ宜しく親分へも宜しく』

ヒョロ〳〵とよろける足許、それでも生醉本性違はず、祝儀は懷ろの腹卷に包み、威勢よく鼻唄交りで出て行つた

元來た道を一里足らず寶積寺の町まで來た時には醉は一時に出て愈々鐡は千鳥足になつて來た

酒飲みが其前を通り切れないのは酒賣る家の軒であつた。况して懷に金は一兩二分もある

『先刻の柳屋でもう一杯元氣を附けて行かうか』

漫談 酒

シバタコウイチ

B　此う云ふ人は別に惡意が有つてやるのじや無いでせう。醉つた餘りにほんの惡戲氣持から成すのでせうか何れにしても一打も揃へちやつてはどうも善意とは解釋出來ませんわェ……

良くカフエー等で盛んに呼び並べて女給さん達を困らせてる方を見受けます

『おーい花ちやん君々一寸一寸待て、君、君がだね、お〻俺に一杯の酒を注したからと云つて俺と君との即ち相互間に戀愛なる物の構成されると思ふかア――』てな事を云つてカンバン近し迄奴鳴つてるです

兎角質の良くない癖は多くは酒の上でです。或會社の給料日、新婚のA君無理矢理に四人の惡友に誘惑され四五軒飲み歩いて最後に大きなビアホールで

A『昨夕飲んで歸つて今日亦こんなに遲くなつちやワイフ嘸デヤン〳〵してるダロー』

B『少しは浮氣したつて構ふもんかァ――、君見たいに其んなにワイフを大事にしたつてだ、死ぬ時は別れんだぞ』

A『君達は其んな冷淡な事を云ふから家庭圓滿に行かんのだ、夫婦と云ふ者はだ須く一身同体で行かなくちや俺達二人は生れる時は別々だつたが死ぬ時一緒にと固く結婚式の夜約束したんだ！』

C『隨分むづかしい約束を交したもんだね――』

A『兎に角困つたョ、今夜こそは。第一今朝出勤の時與々も注意されたんだ。何んとしても歸りもンだなア――』

E『何んだそんなこと…心配するに及ばないよ土産を買つて歸りやいゝさ』

A『土産？』

E『そうよ、其れもアイスクリームだ。嬶がヂャン〳〵怒つて來たらすかさずアイスクリームを出すんだョ……とたんに冷えちやワーな』。

新八月十六日 水曜 舊六月二十六日 甲寅 赤口 破 參宿

諸判定廳看 東京市本鄕區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神誠舘

▲一白の人 進む心を厭えて退守の方針を採れば平なり▲二黑の人 順調に運ぶ事と思ひしも意外の障がいにあふ▲三碧の人 決斷力を强め大に奮勵する所あらば望達す▲四綠の人 警戒しながら圖らず人の談合に乘り迷惑す▲五黃の人 萬事放まんに流れて財盤回復容易ならざる日▲六白の人 辛勞は身にまとはる屈せず勵めば成果を見る▲七赤の人 我意專行は失敗を招くの基病厄盜難亦警戒▲八白の人 物事は十分ならんと望むより八分が安全▲九紫の人 不斷の努力現はれて希望を滿足せしむる日

內臟外科 一般外科 花柳病科（入院隨意）
平町六丁目（橋際） 木村外科醫院 電話三〇九

新製品發賣!!!
コーヒー通待望のコーヒー來る……！
ジャバ モカ グアテマラ 本場コーヒー三種配合挽立……
1/4封カン入三五錢 1/2封カン入七十錢 味覺滿點

香味本位の本場銘茶を召上りませ……
電三九六番 大勝園

有給社員招聘
年齡 二十五才以上五十才マデ
經驗ノ有無ヲ問ハズ奮鬪ノ士ヲ望ム
希望者ハ履歷書送附アリタシ追而面會日時ハ通知ス。
有隣生命保險株式會社 平出張所々長 鈴木健司 平町大町十九番地

醫院開業
諸橋外科醫院
診療科目 ○內臟外科 ○整形外科 ○腦外科 ○皮膚科 ○婦人外科 ○性病科 ○一般外科
醫學博士 諸橋鐵彌 平町新川町廿七（電話四六四）
入院室 手術室 完備

產科 婦人科 花柳病科
午前宅診 午後往診 入院應需
井阪醫院 平町田町（元合津醫院跡） 電話五五九番

●あらゆるお好みの……柄合とお値頃……豐富に取揃へました●
パラソルは中野洋品店
圖おつとめ品……パナマ帽子九十八錢圖
平 電二五三番

●新築移轉開業御披露
今十四日から移轉開業いたしました！。當日より「五日間」粗品呈上。
御披露のため當分特に「ランチ」金三十錢也で勉强いたします……。
コックさんも東都一流のうで利きを招ぎました。女給さんは美人揃ひ之れまた東京仕込みのサービスでございます。
平町二丁目横警察署前通り カフエー平樂 電話二九六番

お醬油は……ヤマフル
味噌 醬油 たひら正宗 鰹節 食料品
鹽屋 山崎合名會社 福島縣平町 電話（營業部一〇番 本店二七番）
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

夜間診療
胃腸 性病 專門
內科 胃腸病科 花柳病科 性病科 皮膚病科
松村胃腸性病科醫院（平町南町電一〇七番）

專門大家が畢生の苦心
絕對の『治淋藥を完成』强力の注射原藥を內服さす
資任保證 リン病 消渴 創製者 間部藥 間部淋藥
初期にてウミいたみ、コシケある方は勿論ツマラヌ家傳藥危險な注入藥熱拔器等に懲りた慢性患者は必ず此藥の卓越性を發けんす
淋菌は此の藥位强烈でないと死滅しない。
（特長の一）此藥は性病ひ尿科の大家特に淋病消渴治療の權威東京銀座…間部醫院長間部かほる先生が畢生の研究の結晶なり（特長の二）先生が病院で每日患者に使用してゐる獨特の注しや原藥を主劑として之に洋やくの粹が配され殺菌力强大なり（特長の三）服用强烈な殺菌力を有する注しや原藥が全部尿に混り放尿每に尿道粘膜下の深部の淋菌迄撲滅す（特長の四）患者自身の洗じよう注入は慢性やコウ丸炎又は婦人ならばうこうカタルになる恐ろしい危險があるが本劑は然に內部からにようにより洗じようされ菌を一掃するから絕對其心配がない（特長の五）じよう劑の藥効が强いに絕對副作用なく安心して服める
【註文】は來訪カワセ振替代引でまうし込次第急みつ送す
【藥價】一週（輕症）參圓 慢性（五圓） 送料十二錢
（各種有名賣藥アリ）
福島縣平町三丁目三〇 星チェーンストア平支部
一般藥品 賣藥化粧品 醫療器械 ホシ藥舖 電話四二九番

棄權率實に三割四分
汇名、磐崎、川部、田人、川前、豊間は半數以下
氣乘り薄に終つた縣議選擧

終始一貫あぶらが乘らなかつた選擧とは謂へ愈々蓋あけの今十五日は朝來何となくざはめき渡つて寄ると障ると其の話しで持ち切りの有樣であつた。午前七時平（郡選擧區選擧長吉富滋事務官）植田（開票管理者富澤清事務官）下小川（今井清武事務官）三ヶ所の開票は息づまる緊張裡に一齊開始され兩候補の運命を秘むる各町村の投票函は到着順にとつて開かれたが有權者數に對する實際投票は左記の如く棄權率（平町を除くの外若干の死亡、轉失、其他失格を含む）は大体實に三割四分の多きに上り過般の町村會議員選擧當時に於ける有權者總數三八、七七二內死亡、轉出其他一、五六六差引三七、二〇六に對する棄權二、二九二（六分一厘）に比すると殆んど似ても似つかぬ不成績である

町村	總數	投票數	棄率（割分）
（平區）			
平	四、〇〇五	三、〇五一	二四
飯野	六〇三	四四二	二七
夏井	五二八	三九一	二六
高久	五一六	三四七	三三
鹿島	三七五	二六二	三〇
內郷	四、九三七	二、九九三	三九
好間	二、二〇八	一、六〇五	二七
神谷	六六一	四五四	三一
豊間	七一七	二八〇	六一
小名濱	一、九七三	一、一三九	四二
湯本	二、五九六	一、九九七	二三
大浦	八五四	六七九	二〇
玉川	四五二	三一一	三一
江名	一、一一七	五三六	五二
磐崎	一、二七二	六一五	五二
四倉	一、三八二	七六二	四四
計	二四、二四四	一五、八八四	三五
（下小川區）			
赤井	一、三三三	一、〇七〇	二〇
大野	七四六	五四一	二七
永箕	七八七	四七二	四〇
平窪	六二〇	四二六	三一
三澤	八三〇	四一一	五〇
小川	八四三	六五六	二二
川前	六三三	二三八	六二
計	五、七七二	三、八二五	三四
（植田區）			
泉	七六〇	五四四	二八
渡邊	三九三	三〇七	二二
山田	四〇五	二九四	二七
上遠野	八九九	七六六	一五
植田	一、一三六	九六五	一五
錦	五五〇	四三三	二一
勿來	一、五三八	九四四	三九
入遠野	八一八	五八一	二九
田人	一、〇一二	四一九	五九
川部	七三三	三五三	五二
計	八、三三三	五、五九六	三三
合計	三八、二四八	二五、三六五	三四

選擧郵便八萬通
平局集配增員の大童振り

選擧に際し平局では集配夫延八名を增員大童であつたが推薦、挨拶狀總數七萬八千四百六十五通で內譯左の如く去る四、五日頃が最も激甚を極めて居る

七、二九	一、〇一六
三十	三八五
八、三	四、〇四二
四	一三、八四一
五	一五、二〇三
六	一七、六九七
七	一三、八四三
八	四、五三一
九	八五一
十	五、四〇四
十一	六九二
十二	六〇八
十三	三〇二

農事講演會
菊地博士來郡

神谷農試分場長齊藤泰治氏は來る十六日恩師京都帝國大學農學部筆頭教授農學博士菊地秋雄氏を招き翌十七日同場講堂に於て講演會を開く事になつた

。。。。湯本磐中同窓會。 磐中出身者よりなる湯本町磐中同窓會例會は二十二日午後六時から同町新つたに開催するが出席五十餘名に上る見込で役員選定規約改正其他を協議し終つて盛大な懇親會を催すと

。。。。研農會總集 石城研農會總會は來る廿一日午後一時から神谷村農試分場に開催するが同場では當日惣頭品評會を催し同一時から即賣會を行ふと

。。。。三小學兒童招集。 平三小學校では今十五日兒童を招集各校長の注意、練習帳檢閲後校舍內外の大掃除を行つたが各校共殆ど出席の成績極めて良好であつたと

磐中野球部が新進チーム養成
今日から猛練習開始

過般の東北大會に健鬪一躍名を馳せた磐中野球部では愈々スポーツの秋も近づき又同チームは殆ど明春卒業生より成つて居る關係上新進選手を養成すべく今十五日午後一時から練習を行ひ同四時からは同校に於て小檜山校長、名尾教諭を招ぎ今後の方針に關する座談會を開いた

近づいた祭典に境內の敷石修理
工事を急ぐ飯野八幡

裁判所、刑務所邊から廣大な境內邊迄附近一帶人で埋まる八幡樣のお祭りは來月十五日執行されるが同社の參道五間程の敷石が凸凹はげしいので氏子同志發起の下に經費五百餘圓でこれが改修を行つて居るが今月下旬迄に竣工すると

江田林道 殘工着手
營林署設計を進む

小川郷から輕井澤方面へ通ずる南江田林道新設工事は昨年秋起工一部分を完成し今年も來月上旬延長一里餘の殘工事に着手冬一ぱいの完成豫定で平營林署で目下工事計畫を進めてゐるが完成後は人馬の往來可能となり從來の不便が一掃される譯である

白衣の糸姬 四倉清遊
片倉女工團体水泳

片倉製糸女工百二十名は今十五日白服、白パラソルのお揃ひで午前八時半平發四倉海岸で海水浴を行つた

天滿宮の圖書入賞兒
三小學で百名決定

昨夜執行した平町揚土天滿宮祭典當日の小學兒童圖書書方展覽會入賞者は第一＝六年赤坂隆道外十八名、五年加藤侯夫外十五名、第二＝六年古田部輝代外十六名、五年鈴木スズ子外十七名、第三＝六年男諸橋富彌外八名、五年男今田實外七名、六年女井上和子外六名、五年女白土ノブ子外五名計百名であつた

湯治場荒し
けふ身柄送檢

當時住所不定無職石川郡生れ關根美左雄（三八）は去月廿六日大野村大字玉山鑛泉宿石屋方に於て同宿の久保內清三郎所有の現金三十三圓三十一錢在中の蟇口及金緣眼鏡（價格三十五圓）を窃取今十五日身柄送檢

殘炎に喘ぐ老勞働者
匡救土木事業人夫に
六十歲以上が約廿名

平土木監督所管內の八年度匡救土木縣工事平町國道側溝外三ヶ所は去月中旬から着手したが同月末迄十五日間の使役人員男百六十一人女二十九人、延二千七百二十四人、女百六十七人、合計二千八百九十一人、之の賃銀は男六十錢、女四十錢總額千七百圓位で炎天下に六十才以上の老人が二十名近く働いて居る

水上の覇者高月
磐炭軍を屠る
昨日高坂プールの壯觀

磐中對磐炭の競泳大會は昨十四日午後一時から內郷村高坂プールに催したが八十四對六十四で磐中軍優勝、同四時半閉戰した、順位左の如し

（三百米リレー）1磐中（佐藤、志賀、木村、澁谷）（四百米自由型）1庄司（磐）2水野（同）3小林（炭）（百米背泳）1富岡（炭）2森（炭）3佐藤（磐）（百米平泳）1志賀（磐）2加藤（炭）3國井（炭）（百米自由型）1佐藤（磐）2木村（同）3村上（炭）（二百米平泳）1志賀（磐）2星野（炭）3加藤（同）（三百米メドレーリレー）1磐中（佐藤、志賀、澁谷2磐炭（富岡、星野、村上）（千五百米）1澁谷（磐）2庄司（同）3富岡（炭）（八百米リレー）磐中（菅野、澁谷、水野、庄司）

景氣好轉を匂はす
通話度數の增加
平局最近の調査統計

平局の電話室には現在四十五名（內高女出三名）の事務員と主事補五名、書記補二名が日勤、夜勤平均七時間づゝを昨今の暑熱と鬪つて事務員一人一時間平均七百位の交換に當つてゐる、六、七、八三ヶ月（今月分は所定の調査標準により今後を豫想せるもの）の市內外通話數は

	六	七	八
市外	一、五〇三	一、四二六	一、四〇四

（備考）―六月發三七六中繼五六九 着五五七＝七月發三二一中五八五 着五一九＝八月發三六四中五一六 着五二四

	六	七	八
昨年	一、三二二	一、二〇七	一、二八六
市內	八、四六七	九、四七三	九、三二七
昨年	六、八九九	七、六〇〇	八、三八七

で市內外を通じ前年同期に比し非常な增加を示し各方面共漸次活氣を帶び來つた事を物語つてゐる

平營林署 製炭調査
業者の統制を圖る

平營林署管內川前、上小川三坂、永戸方面山間部落の製炭業は專業總計二百名副業者五百餘名に達し材料の拂下げは毎年各區長から營林署へ申し込む規定で來月上旬からは弗々冬期の計畫として右製炭が開始されるので營林署では目下同方部落の製炭者を統制する爲夫々調査を進めてゐるが製炭

投檜
迎歡書投

S。某。に。（下）

兎に角これから君に何を書かれても、至極ノンビリして世迷言を一生懸命になつて昂奮する程暇もないし稚氣もないからこの事に就ては打切にしておく。所でお山の大將俺一人になつてひつこみつかない事、御機嫌良う

附記。この一文は君の再言一束以前に書いたものだがまさかこんな愚鹿な事が判らないで聞いてた君でもあるまいと匿名たけ敎へた積りだが今度ば僕の人格とか仰有つて定型律自由律をひとくさりやれと仰有る。で書いて置いた一文を送る事にした

二、所で昨日磐新に出たの返辭がもう今日出てゐる。君の方は便利で結構ですな（此間三行削る）之は餘計な邪推だから取消しにしやう。

三、理論の行方と言ふ君の心配は事實である、口舌は身を誤まる基、君たけが自戒すれば結構だ

四、傲岸不遜の僕に對して些かの叱責もなき高木君の襟度に對してもこんなつまらぬ事のひき合に持出す事は僕として心苦しい極みであるが何卒諒として頂きたい。

平、高萩驛間で火粉止め試運轉
將來の改造に資す

鐵道研究所の計劃にもとづく平驛、高萩驛間機關車火粉止め改造試驗は來る十七日から二十五日迄本省から專門技術官が出張行はれるが平驛では當日左記の通りCタイプ五十一號六十輛Dタイプ百輛を試運轉する平驛關係分は左の如くである△高萩發午前十時五十分平驛着正午。同一時五十分發、高萩驛着午後二時五十四分（以上十七日、十九日、二十一、二十三二十五各日運轉）△高萩驛發午前十時五十五分、同正午平驛着（直通）同平發午後一時四十分、同二時五十一分高萩着（以上十八日、二十、二十二二十四の各日運轉）

祭式講習會
けふから平で開催

本縣神職會石城支會主催の郡下神職祭式講習會は今十五日から五日間磐城訓盲院に於て開催各町村長有志以下神職五十餘名出席講師縣囑託勿來町郷社國魂神社社司宮川富重氏の祭式祭典執行所禱上について諸般の指導をなすと

。。。。增田氏榮轉 平土木監督所增田政男氏は今十五日附で縣土木課へ轉勤を命せられた

。。。。大島驛長別宴 平驛運轉係から茨城縣下菅谷驛長に榮轉した大島恒介氏の送別會は昨十四日午後七時から住吉屋支店に於て開催、後藤驛長以下驛員多數出席盛會であつたと

一道數縣を荒した
膳椀塗り替え詐欺
けふ平署から送檢

內郷村小島新町居住大沼郡本郷町生れ紙屑屋詐欺窃盜前科五犯宮本信次（四九）は去月二十日同村御台境佐藤菜から膳二十枚の塗替えを依頼されインチキ塗料を依用して二十圓を詐取して其筋に訴へられたが取調の結果昭和三年九月中北海道札幌驛前山形屋旅館事大山寅治氏方から膳二百人分椀百人分の塗換を依賴され同

力闘竟に及ばず
草野候補に敗る

各町村の得票次の如く赤坂候補は力闘終に及ばず敗れ茲に縣議戰は大團圓を告げた

町村	赤坂	草野
小川	二六五	三八六
好間	五五六	一、〇六六
飯野	三〇三	一五八
神谷	三三六	二二六
植田	五〇三	四四九
錦	三四四	一七〇
赤井	三三〇	八二五
大野	三二七	二九〇
永箕	一三八	三三七
平窪	二一七	二〇四
川前	六五	一七〇
三澤	一八四	二二九
平	一、四二六	一、五五〇
高久	二四五	九九
渡邊	二二〇	九四
川部	二三三	一四六
草野	一三三	三〇九
大浦	四二	二六四
山田	三九七	一〇五
玉川	一八六	一三三
四倉	二〇一	四二三
夏井	一七六	二二三
鹿島	一八六	二三三
泉	三六六	一六九
小名濱	七八〇	三三八
內郷	八九九	二、〇七〇
豊間	一八〇	九七
江名	三一六	二二四
入遠野		
上遠野	五四六	一九七
勿來		
田人		
湯本	三九	一、六一七

尋ね人に逢へず
公園に睡る
不心得な家出少年

昨十四日午後三時頃平町松ヶ岡公園ベンチで午睡して居る事情ありげな少年あるを平署員が發見事情を聞くと、右は宇都宮市中河原町二〇二太吉氏四男吉田義政（一五）君で十三日些細な事から實父に叱られたのを氣にして家出し平町久保町で菓子行商を營んで居る實兄吉田義爲氏を賴つて來たが數ヶ月前若松市へ轉住した跡で途方に暮れて居たものと判明說諭の上親許へ引渡した

。。漂泊。 双葉郡大堀村淸水二六大工職織田平助（四九）は妻子三名を殘し六月以來東京方面で職を捜し歩いて居る中脚氣に罹つたので各町村役場、警察署の世話になつて歸郷の途中今十五日平町役場に辿りつき旅費を哀願し出たので晝食と四倉迄の汽車賃を與へて出發させた

新京から

大連、新京にて開催する日本新聞協會大會に出席のため目下滿洲旅行中であります。今滿洲は新興氣分に燃えて居ります。旅順、奉天等の戰蹟を見聞して當時を想起し轉た感慨に堪へざるものあると共に地下の英靈に對しても『我等の生命線滿洲』の建設に萬全の策を廻らさねばならぬ事を痛感いたしました。これよりハルビン、山海關及朝鮮を視察し本月下旬には歸福の豫定であります。茲に滿洲國より遙に貴下に敬意を表します

（滿洲國新京にて、古和口虎雄）

平區略式一束

。。過傷。 双葉郡浪江町大字權現堂字新町二自動車運轉手澤田三男（二四）は去る四月二十八日午後五時頃平町より貨物自動車を運轉鎌田地內に於て同町忠治長女文子（八）を突き倒し左下脚部に全治七週間の創傷を與へ罰金二十圓

。。密獵。 小名濱町字古港理髮業小山光義（三七）は無免許で去る五月二十日同町裏山に於てトリモチでメヂロ一羽を捕獲罰金二十圓

。。傷害。 玉川村大字野田箱崎重義（三七）は去る四月二十九日內郷村大字綴字町の內林佐太郎と自轉車修繕の事から口論の末金槌で同人の左太腿部に全治一週間の打撲傷を負へ科料十圓

。。衡器。 小名濱町雜貨商佐川傳平治（七六）は去る五月初旬鍾糸切斷したる秤を使用し度量衡違反で罰金二十圓

。。古物。 四倉町本町鈴木倉治（四三）は鉋金三貫目を買却帳簿に記載せず罰金五十圓

。。賭博。 小名濱町字岩西馬上キヨ（六七）同町中明神五金物商野口信吉（四四）同町字竹町一二水夫高橋忠治（三一）同町柳內熊吉（六五）の四名は去る六月二十六日夜馬上方で賭博開帳罰金各二十圓

外科 全般 醫學博士 渡部義夫
內科 小兒科 女醫 渡部きい
平町田町大通り （電話二七七）
（入院應需） 渡部外科

コロンビアレコード
傑作流行歌!!!
讀賣新聞社…懸賞當選歌
東京祭 薮町二三吉
及ビ
波路を越えて 松平晃
ガ發賣ニナリマシタ。御試聽ハ是非當店デ。
會田時計店 平四 電話三六三

吉田眼科病院
平町紺屋町

耳鼻咽喉科專門
平町田町七〇番地
醫學士 山內亨吉
山內醫院
入院隨意 病室完備
電話 六九一番